

地域おこし協力隊『奔走中』

企画振興係

● 移住定住担当
の今井優花です

10月に立科中学校の一年生に向けて、移住定住担当として見ている立科町の魅力や移住についてお話しする機会をいただきました。移住希望者が感じている町の良さを紹介すると、生徒のみなさんが日頃から感じている「水や食べ物がおいしい」「星がきれい」「人が優しい」といった魅力と重なる点

が多く、自分たちの暮らす町の良さを改めて実感している様子うかがえました。

また、移住相談を通して見えてくる新しい視点からの魅力にも触れ、普段は気づきにくい価値に目を向けてもらえる時間にもなりました。

「どうしたら移住者を増やせるか」という問いにも、生徒のみなさんがそれぞれの感覚で意見を出してくれました。都会には“あるもの”が立科には“ない”ことが多い反面、移住希望者にとってはその“ない”ことこそが豊かさにつながるというギャップにも、興味深そうに耳を傾けてくれました。

一方で、移住を希望する人が増えているにもかかわらず、住む家の選択肢がまだ十分ではない現状についてもお話ししました。そのうえで、町内に空き家が多く存在することに驚く声があり、空き家バンクの登録件数を増やすにはどうしたらよいかについても、難しいテーマながら前向きな意見が交わされました。

今回の講演では、生徒のみなさんが自分の住む町の魅力を改めて考え、空き家の課題にも関心を向けてくれたことが印象に残りました。これからも、立科町の良さを大切にしながら、空き家の活用について一緒に考えていけるような機会をつくっていかれたらと思います。

